

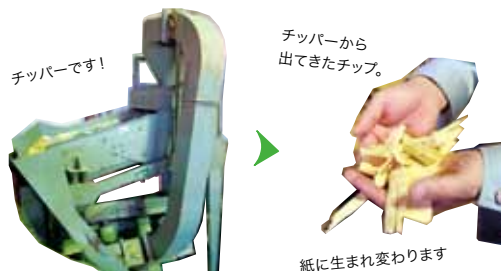
## 製材所ではこんな作業も見られました



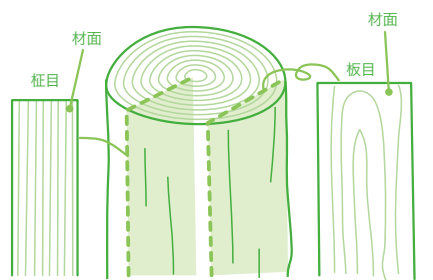
節が抜けてしまった材もひと手間かけてしっかり使います。穴の大きさに合わせて丁度いい太さの枝を差し込んで埋めていきます。手際よさに入ります。

## 廃材も利用されています

製品にならない端材は、チッパーという機械でチップにし、紙の原料や公園の遊歩道などで利用されています。また、直接燃料として使われます。



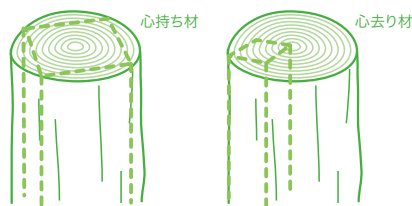
## 用語解説



**材面** 木材の断面のこと。

**板目** 樹幹に平行な断面で、年輪に対して接線となる断面のこと。

**柾目** 樹幹に平行な断面で、年輪に対して垂直な断面のこと。



## 心持ち材

丸太の中心部分を持つ材のことで、普通構造材に使われます。心去り材より割れやすいので、背割りなどの技術を施す必要があります。

## 心去り材

丸太の中心部分を持たない材のことで太い原木でないと木取りできません。弓なりになりやすいけれど割れにくいという面も。ちなみに法隆寺で使っている柱は主に心去り材だそう！

## 無垢材

材料をつなぎ合わせたりせず、素材そのままの状態です。製品化された木材のこと。しばしば複数の材を貼り合わせた集成材に対する言葉として使用されます。

## 構造材

木造の建物で、柱や梁、桁など力のかかるところに使う製品のこと。

## 造作材

床板や壁板など、家の内装などに使う製品のこと。

## 背割り

心持ちの柱、磨き丸太などの表面が割れるのを防ぐため、あらかじめ材の背面を樹心まで挽き割っておくこと。

## 節

木が生長する過程で木部に巻き込まれた枝の一部で、材面にあらわれる節の数とその大きさによって製品の等級と価格が決まります。

## 木の等級



## 無節

材面に節のない製品。

## 上小節・小節

材面にあらわれた節の状態によって等級分けします。

## 特一等

材面に節があるけれど、一等材のような丸みのないもの。

## 一等

角材で、節があってもなくても、一部分、皮をむいた丸太のままの丸みがあるもの。

P.6~P.12 参考資料『森林・林業・木材辞典』 森林・林業・木材辞典編集委員会/編

## 今回製材所を見学させていただいた製材所の代表に、木のこと、多摩産材のこと、いろいろ聞いてみました。

中嶋材木店

## 中嶋博幸さん

東京都あきる野市留原800-1  
TEL:042-596-1404  
<http://www.gws.ne.jp/kigokoro/>



沖倉製材所

## 沖倉喜彦さん

東京都あきる野市伊奈1038  
TEL:042-596-0236  
<http://www.okikura.co.jp/>



繊維業だった家業を製材業に転換したのは55年程前。昭和40年代頃から他の製材所との差別化をはかり、大径木の外材製材が主力になりました。地元にもたくさん木があるのに…と矛盾を感じていた中嶋さん。会社の代表を引継いだ10年程前、値段は高いままで段々と質が悪くなる外材を目の当たりにし、外国で大径木が刈り尽くされ良い資源がなくなってきたこと、地元の資源を使っていく時期が来たことを感じ、地元の木材を取扱い始めました。今では7対3の割合で国産材の取扱量が多くなっています。東京の林業の規模は他県に比べて小さいけれど、大きな消費市場を持っている恵まれた立地条件、それをまだ活かしてない、という中嶋さんは2年前、新宿OZONEで展示会を開催するなど、多摩産材の普及に精力的な活動をしています。「先人達が手間隙掛けて手入れしてきた木材をきちんと評価し活かした利用方法を見出してしていかなければ、林業や製材業の再生も自立もありえない。地域産業や行政等とも連携し、商品開発を行い地域資源を活かせるような提案を積極的にやっていきたい。」ビルの多い都心でも使えるような木の内装材や、多摩産材の集成材の開発など、中嶋さんは既に動き出しています。

東京の木・いえづくり協議会の役員でもある沖倉さんは、木の伐り出しから製材所の見学会、家づくりに関するセミナーを行うなど、多摩産材を使った住宅建築の普及に精力的に取り組まれています。「今は、国産材で家をつくるチャンス。」と沖倉さんはいいます。国産材は高いと思いがちですが、国産の材価が下がっていたり、外材の輸入コスト高騰などで価格はそれほど変わらないそうです。また、多摩産材で家を建てる住宅ローンの金利が良くなる優遇融資制度もあります。「多摩産材を使うメリットは、家でいうと耐久性。地域で育った材はその地域で強い。家は外見ではなく中身です。100年、孫の代まで使える家が建てられる。」そんな沖倉さんは、常にこの丸太から何をとりのがいいか、木に対して最大限の利用価値を見いだして木を挽くといいます。木の難しさは1本1本性格が違うということ。曲がっていても穴があってもそれをいかした使い方をします。それは木に対する感謝の気持ちの表れだと思います。沖倉製材所ではそんな木のクセを活かした家具も見ることができます。家づくりは一生に一度あるかないかの大きな買い物。作り手たちの顔が見える家は、そう遠いものでもないのかもしれない。

## 今年もやります!多摩産材PROJECT 山からはじまる街づくり

期間 2009年3月2日~29日  
会場 新宿パークタワー1階  
PARK TOWER GALLERY3  
お問い合わせ 中嶋材木店まで

こちらで紹介した沖倉さんと中嶋さん、お二人の仲間である下野さんが参加し、新宿パークタワーで多摩産材PRの展示を行います。展示会では多摩産材を使った製品や東京の木のこと、山のことを紹介します。多摩産材の製品を手に取り、直にお話を伺えるチャンス!ぜひ足を運び下さい。

秋川木材協同組合では製材所の見学を行っています。お問い合わせ TEL:042-596-0037 <http://www.akigawamokuzai.or.jp/>

文/高橋 享子